

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779500475		
法人名	社会福祉法人野のはな		
事業所名	グループホーム 野のはな		
所在地	大阪府阪南市和泉鳥取950-7		
自己評価作成日	平成25年5月26日	評価結果市町村受理日	平成25年8月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年7月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症状の進行により自立した生活が困難になった状況でも、出来る支援を1つずつ探し、取り組んでいる。 ・家庭的な暮らしのなかで、尊厳ある姿勢と傾聴ある態度を忘れず、その人らしい生活、居心地の良い生活が継続できるよう支えている。 ・職員一人ひとりの介護センス、あるいは感性を豊に、明るく、元気に笑いの絶えない環境を作っている。 ・目線を合わせ、ゆっくりとスピードを落とし多くの会話を心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>泉南生協が寄付した土地を基本財産にして社会福祉法人として設立し、以来開設10年を経過した法人は1階にデイサービスを併設し、近隣に障がい者グループホームや就労支援の為に作ったベーカリーカフェがあるマジックルーム等、地域の福祉事業を運営している。「医療・介護・住宅のある生協」として異彩を放つグループのオレンジユープが運営する介護付き住宅が隣接されており、イベントや防災で連携した協働関係が築かれている。事業所は利用者が日々自分らしく過ごせるように職員間のコミュニケーションを大切に、笑顔で一人ひとりに寄り添いながら、より良いケアサービスの向上を目指している。地域の食材を使った手料理は、美味しく満足されている。地域ボランティアを積極的に受け入れ、地域資源を活用している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム野のはなの理念でもある「いつの日も自分らしく生き生きと」を常に心掛け、家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるように一人ひとりに合った支援を行っている	短く分かり易い言葉で事業所独自の理念を作成し、分かり易い所に掲示し日々職員は共有し、理念に添った実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年6回の運営推進委員会を中心とした情報交流を図っている。入居者自身の参加については出来る範囲で実施している	事業所の前に地域の五穀豊穡を祈るやぐら屋台が来て、利用者は近隣住民と一緒に秋祭りを楽しんでいる。小学校の運動会に参加したり、地域のボランティアを積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進委員会でご出席の自治会長又は市職員の方より情報提供を頂き、当事業所からも研修報告等伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進委員会にて、報告・議論・助言等の内容については、積極的に実施している	5地区の自治会会長・家族・市職員・民生委員に参加を毎回呼びかけ、年6回開催している。単なる報告だけでなく毎回テーマを決めて話し合い、参加者から出された意見は事業所の改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者又は、計画作成担当者が窓口まで持参し情報交換を行うことを心掛けている	市職員とは気軽に相談出来るように管理者や計画作成者が出来るだけ訪問している。事業所は定期的に来訪される介護相談員と相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なしの業務に取り組んでいる。(定例会議の場で意見交換の時間を取り、周知徹底している)	原則身体拘束は行わない方針を明示している。定期的な研修を行い、職員は身体拘束ゼロを実践している。玄関は日中施錠はしていない。事業所はできるだけ日常的な外出を大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・職員会議等を通じて一人ひとりの様子を把握するよう周知徹底に努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所外研修に参加し、その後事業所内研修としてフィードバックし、周知徹底に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重説の説明・確認を行った上行っている。又、改定時も同様に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会等で意見交換の場を設けている。又、行事等への参加及び随時意見・要望に答える機会を設けている	職員は家族が来訪された時に意見や要望を聞くように努めている。意見や苦情は苦情処理簿に記録し改善につなげている。年1回懇親会も兼ねて家族会を開催し、要望を気軽に言える雰囲気を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議(毎月)・ケアカンファレンス(月1回)を設置している	事業所は毎月職員会議を開催し、職員は意見を率直に発言している。管理者は職員間の意志疎通を大切にし、ケアサービスの向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に面談を実施し、働き良い職場作りの為に意見交換を行う機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、年2回の内部監査を実施し、必要な指導を行い、外部、内部研修等で職員の質の向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村主催の研修会への参加や、介護相談員報告会等に参加し、得た情報等をカンファレンス・職員会議で職員に伝達している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や、困っていることを傾聴し「寄り添うケア」を心掛け、家族的な雰囲気や崩さぬよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に傾聴し、その都度対応し、信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「その時」必要なサービスを見極め、必要な関連事業者と連絡をとり、サービス支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間の情報を共有し、本人の出来ないことのお手伝いを行い、それぞれの役割をもって頂き、支えあう関係を築いていけるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、ご家族の来訪を願い共につづる場所の提供を行い家族との絆を深めていただくためのサービスを心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の情報を収集し、外出支援等も組み入れ、対応している	以前の趣味である俳句の友人が来訪されたり、年賀状等のやり取りを支援している。家族の支援で実家に帰ったり、孫の結婚式に出席して馴染みの場所への支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者同士の関係を把握し、居場所作り、居心地良い環境作りに配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする際、相談に応じさせて頂く旨をお伝えしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的な介護技法を入居者一人ひとりに合った支援を行っている	フェースシートで過去の生活歴を把握し、利用者1人ひとりの思いや希望に添うように努めている。家族とのくり返しの会話から入所時には聞けなかった新たな情報を得てケアサービスの改善が出来た事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを元に職員間で情報の共有を行い、サービスを提供している。情報収集に努め必要時、センター方式も活用し、チームケアに取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を注意深く観察・記録し情報収集に努め、個々に合ったケアプランを作成し援助を行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとにケアプランを作成。状態に応じ見直しを行っている。カンファレンス等で意見交換を行い、担当者会議の場を持ち、新計画を作成している	月1回行うモニタリング・カンファレンス・サービス担当者会議を通じチームで利用者の状況を把握し、家族や医師と相談しながら計画変更を定期的実施している。急変時には即見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス・職員会議・口頭等で情報の共有化を図り、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時必要なサービスを可能にする為、職員の勤務体制も随時変更し、サービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	計画作成者と介護職員が中心となり本人の希望に沿いながら、安全に暮らせる生活を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、主治医の往診を受け、必要時他機関の受診又、家族の希望に沿って行けるよう心掛けている。緊急対応時、連絡体制を整えている	今までのかかりつけ医には事業所の支援で通院している方もいる。主治医には月2回の往診を受け、週1回は主治医以外の医師も往診されている。受診結果は家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、24時間主治医に連絡できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換する体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、本人・家族の思いを第一に考えた対応を図っている	最近、家族の希望で老衰による利用者の看取りを医師や法人の看護師の協力の下で経験した。職員も大変だったが事業所として重度化に関する新たな進化となった。今後も家族の思いを大切に皆で話し合い出来るだけの支援を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要である研修には、全ての職員に参加してもらい、事業所内研修でフィードバックを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施し、緊急時対応マニュアルを作成し、職員全員に周知徹底を図っている	年2回の消防訓練を実施している。1回は消防の指導を仰いでいる。隣接するグループ会社の協力体制も構築している。より詳細な災害時避難誘導マニュアルの作成にも取り組んでいる。	3階部分にある事業所として、独自の避難誘導マニュアルを作成し、グループホーム協会の調査研究報告の資料を参考にした夜間時を想定した実践的な訓練を増やす事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや自尊心を損ねないよう「尊厳の保持」「傾聴ある態度」を心掛けるよう職員には周知徹底を図っている	事業所は高齢者の尊厳を大切に、基本的に守るべき接し方や言葉使いに気をつけ、プライバシーを損ねないように努めている。職員は互いに尊厳を損ねる態度や言葉使いに気付いた時は注意し合うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方が望んでいることにできる限り近づけ、自己決定の出来る言葉掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない事を常に職員に徹底させ、入居者のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面・整容又、衣服などを選んでもらい、身だしなみに注意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを役割分担して、食事作りに関して頂いている	地域で旬の野菜や生鮮食品を調達し、職員が交代で調理を担当している。利用者は出来る範囲で食事に於ける一連の過程を手伝い、笑顔に満ちた食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日入居者全員分の食事・水分の記録を行う事でその方の体調管理に役立てている。脱水や疾病に繋がらないよう注意し観察している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケア方法を実施している。週一回の歯科検診も受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行う事で排泄間隔の把握に努めている。個々に合わせた方法で声掛けし、自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを職員は把握し、出来るだけ自立の排泄につなげるように支援している。プライバシーに配慮した声かけを行い、さり気ない誘導を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録表のチェックにより、便秘状況の把握に努めている。水分も摂りやすいよう飲み物等に工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴を行えるように努めている	週2回は入浴が出来るように支援している。地下にあるデイサービスと共同の浴槽（一般浴と機械浴）で時間を分けて入浴支援を行っている。利用者の希望を聞いた入浴になるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に応じ、毎日の暮らしの中に静養の時間を設定している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾患を把握し、服薬援助を行っている。何か異変があれば主治医に相談できる体制を整えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を職員全員が把握し無理強いはなく、出来ることを積極的に行って貰えるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出・ドライブ・近隣への散歩等を実施している	日常的に少しでも外の空気に触れるように職員は心掛け、近隣の散歩を大切に支援している。花見や紅葉狩り等、車を使ったイベント外出を季節ごとに行っている。利用者がお気に入りの場所となっているグループのベーカーリーカフェに定期的に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ支援する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から話があった時は、電話等で話が出るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた(毎月)飾り付けを食堂から見える場所に貼り、居心地の良い空間作りに力を入れている	居間兼食堂は少し狭いが、2階の広々とした地域交流スペースでは、音楽会等のイベントを定期的で開催している。共有空間の所々の壁には季節感を感じる貼り絵や、言葉を添えたイベント時の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部間にソファを設置している。また2階共有フロアーにて過ごしていただける様、環境設備の充実にも努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等、生活用品を持ち込んでもらい、自宅と変わらない雰囲気や安心した暮らしを提供できるよう支援している	思い思いに馴染みの家具や置物を持ち込んでいる。今までの生活と変わらないように思い出しの写真等を飾り、居心地よく過ごせるように心のこもった清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のタンスに、利用者が理解出来るシールを貼ったり、自立した生活が送れるよう頻りに声掛けの機会を作るなど常に工夫している		